

あまみSDGsアクションプラン



2023~2030
奄美市

Ver1.0

あまみSDGsアクションプラン CONTENTS

1 アクションプラン策定の目的	1
2 奄美市における各種計画とSDGs未来都市の関係	2
3 奄美市SDGsの推進体制	3
4 奄美版SDGsの基本理念	4
5 自治体SDGsモデル事業概要	5
6 重点テーマ	6
7 重点テーマ個別目標及び実現に向けたアクション	8
8 奄美市SDGs未来都市構想の実現に向けた個別計画等スケジュール	22
9 用語解説	23

1 アクションプラン策定の目的

奄美市では、市民・企業・団体等の「マルチステークホルダー・パートナーシップ（多様な主体との連携）」を念頭に奄美らしいSDGsを推進していくための基本理念、重点テーマの設定及び具体的なアクションや目標の指標等を示す「あまみSDGs アクションプラン」を策定します。

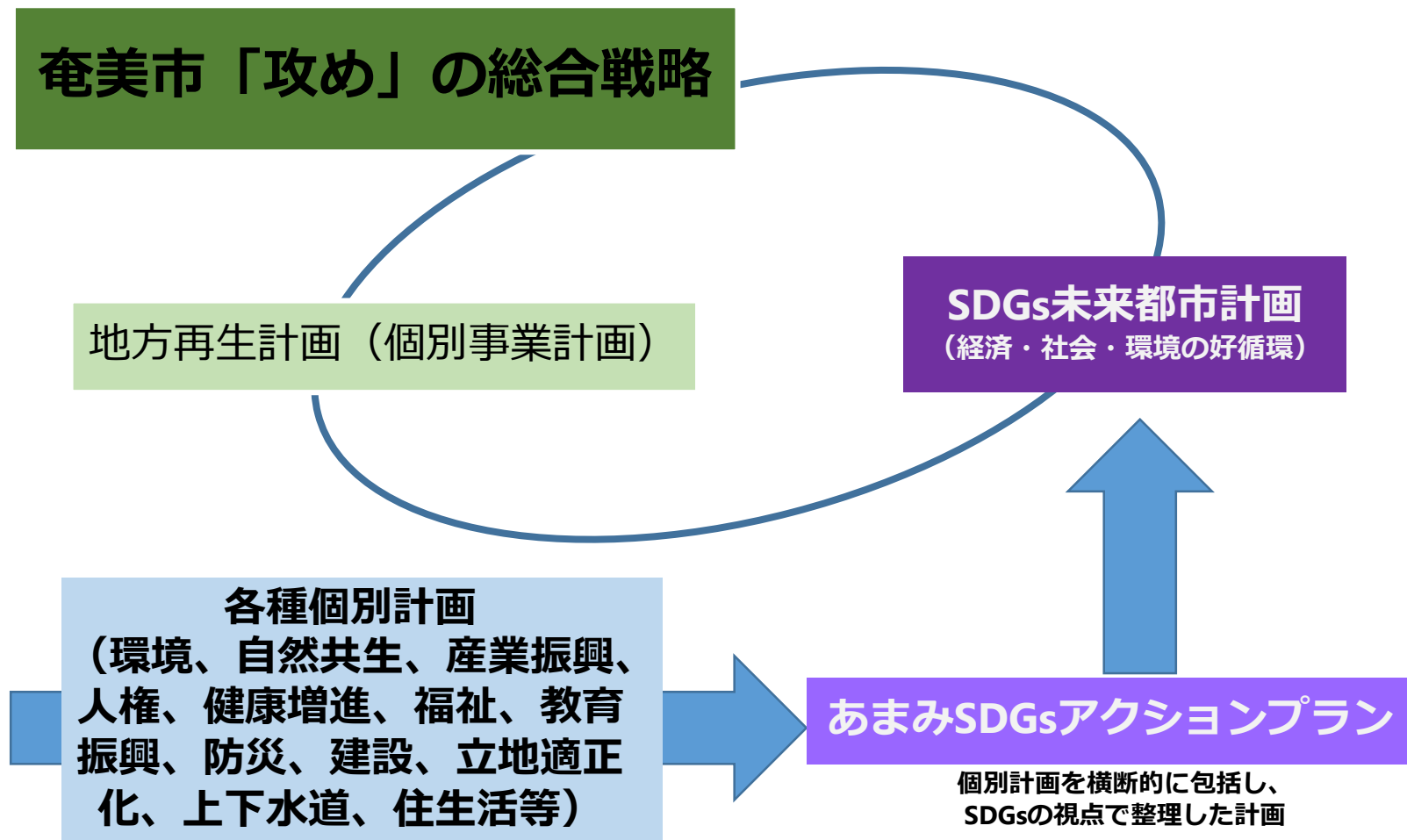
また、現在、奄美市において策定される様々な個別計画がありますが、それらの計画もSDGsの視点をもって総合的に包括することができます。

そのため、「あまみSDGs アクションプラン」の策定にあたっては、国が定める「SDGsアクションプラン2022」の重点事項5項目に沿って、奄美市SDGs庁内推進本部において、基本理念や重点テーマの設定を行い、また、庁内の担当者によるワーキングチームにおいて個別目標の設定や実施計画、モデル事業の提案を行います。

プラン策定においては、SDGsの17のゴール及びターゲットを踏まえ、SDGsの理念に沿った未来志向の観点で進めることにより、政策の全体最適化、地域課題解決の加速化という相乗効果を生み出しつつ、2030年を目標年とする持続可能な将来像の実現に向けたプランとなっております。

「あまみSDGs アクションプラン」の目標の実現に向けては、一人ひとりがSDGsを「自分ごと」として捉え、マルチステークホルダー・パートナーシップによるオール奄美での展開を目指します。

また、SDGs 達成に向けた進捗状況等を点検し、各種意見をフィードバックしながらアクションプランの見直しを行います。



3 奄美市SDGsの推進体制

- 奄美市庁内の横断かつ官民連携によるオール奄美でのSDGs推進体制を構築
- SDGs17のゴール+奄美市独自のゴールを設定し、奄美市攻めの総合戦略を後押し
- 世界自然遺産を軸とし、「経済」「社会」「環境」の三側面の統合的な取り組みを推進
- 多様なステークホルダーの参画を促進し、オール奄美でのSDGsの達成に向けた取組を推進

オール奄美による推進体制の構築

奄美市SDGs庁内推進本部

- ・ 庁内の横断的連携構築
- ・ アクションプランの策定（ワーキングチーム）
- ・ SDGs未来都市構想の検討

奄美市SDGs推進プラットフォーム（ASP）

- ・ 会員の交流・連携（パートナーシップ）
- ・ 奄美版SDGsの情報発信
- ・ SDGs未来都市構想の検討

世界自然遺産プラットフォームとの連携

多様なステークホルダーの参画

①加入促進（意識・理解促進）

- ・ 講演会、ワークショップの開催（ASP）
- ・ 関係部署によるセミナー等の開催（庁内）

②三側面の統合的な取り組み

- ・ 既存の施策・制度による三側面の取組支援（庁内）
- ・ パートナーシップの構築（ASP）
- ・ 「SDGs未来都市」の検討（庁内・ASP）

ゴールに向けた取組

総合戦略に紐づいた取組

- ・ 総合戦略の各施策や目標（KPI）をSDGsとリンクさせ、庁内及びASPと共有する。

アクションプランの実行

- ・ 庁内横断ワーキングチームによる検討・実施
- ・ ASPによる展開

4 奄美版SDGsの基本理念

奄美市では、SDGsの達成年限である2030年のGoalsに向け、持続可能なよりよい未来を築くことを目指し、令和2年2月に策定した「奄美市『攻め』の総合戦略2020」の中で、各基本目標がSDGsのどの目標項目に当たるのか設定を行っています。

「奄美版SDGsの基本理念」については、奄美市SDGs推進プラットフォームからの提言も集約し、奄美らしい視点をSDGsの理念に沿って進めることにより、地域の持続可能な将来像の実現を示しています。

「環境文化」や「結い」を継承し、心身豊かに持続可能な島実現

世界自然遺産登録を軸とした、奄美らしい環境文化、助け合いの精神を守りつつ、「経済」「社会」「環境」の三側面のバランスの取れた社会の実現を示すものであります。

- 環境文化 豊かな自然環境と人が共生する中で育まれてきた歴史・文化。
- 結い 人と人のつながりを大切にする奄美伝統の精神。
- 心身豊か 何気ない日常にありがたみを感じ、身体も心も健康な状態
- 持続可能 奄美らしい活動により、経済、社会、環境が連動した経済発展

自治体SDGsモデル事業名:世界自然遺産と歴史が織りなす環境文化経済循環都市の実現事業 ～しあわせの島実現プロジェクト～

提案者名:鹿児島県奄美市

取組内容の概要:

多様なステークホルダーの連携により、奄美らしい活動や高い社会的価値を生み出す活動を推進する「奄美市SDGs推進プラットフォーム」を設立し、世界に誇る自然環境・生物多様性と深い歴史が共に歩むことで、新しい価値を創造する持続可能な環境文化都市及び所得の流出、エネルギー循環に対応する経済循環都市の実現を目指す。



6 重点テーマ

国のSDGs推進本部では、SDGs実施指針に基づき、SDGsへの貢献を「見える化」することを目的として、2017年から、毎年、下記の8つの優先課題に基づき、政府の施策のうちの重点項目を整理した「SDGsアクションプラン」を策定している。

「あまみSDGsアクションプラン」は、国が定める優先8課題を念頭に奄美らしさを織り込み、奄美の歴史的・地理的・自然的・社会的特殊事情を踏まえ、13の重点テーマを設定しています。

（国が定める優先8課題）

- 1 あらゆる人々の活躍の推進
- 2 健康・長寿の達成
- 3 成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション
- 4 持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備
- 5 省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会
- 6 生物多様性、森林、海洋等の環境の保全
- 7 平和と安全・安心社会の実現
- 8 S D G s 実施推進の体制と手段

13の重点テーマは、国が定める「SDGsアクションプラン2022」の重点事項に掲げる5つのP（People/人間、Prosperity/繁栄、Planet/地球、Peace/平和、Partnership/パートナーシップ）に沿い、「奄美市『攻め』の総合戦略2020」の目標を達成する方向で整理しています。

もうひとつの SDGs の捉え方 -5つのP-

PEOPLE
人間
あらゆる形態の貧困と飢餓に終止符を打ち、尊厳と平和を確保する。

PROSPERITY
繁栄、豊かさ
自然と調和した、豊かで充実した生活を確保する。

PLANET
地球
将来の世代のために、地球の天然資源と気候を守る。

PEACE
平和
平和で公正、かつ包摂的な社会を育てる。

PARTNERSHIP
パートナーシップ
確かなグローバル・パートナーシップを通じ、アジェンダを実施する。

（参考）国連広報センター資料

6 重点テーマ

「あまみSDGsアクションプラン」の重点テーマ

People 人間：

- ①全てのシマッチュ（島民）が、一人ひとりの立場や価値観を認め合い・学び合う、心身共に豊かな暮らしの実現
- ②奄美独自の伝統文化・歴史・自然環境といった「環境文化」を受け継ぎつつ、デジタル技術等も活かした教育環境の充実
- ③医療と福祉の充実を図ると共に、昔ながらの生活に学ぶ健康長寿の島への回帰

Prosperity 繁栄：

- ④地理的特性を活かし、世界を見据える持続可能な観光受入体制の構築と交流人口の拡大による関連産業の振興、魅力ある雇用の促進
- ⑤デジタル技術等を活かした新産業の創出と伝統産業の再盛、フリーランスなど多様な働き方の実現
- ⑥人口減少に歯止めをかけるため、島外からの移住を促進すると共に、出身者のUターンを増やす環境の整備

Planet 地球：

- ⑦CO²削減や再生可能エネルギー導入などの取り組みと、地球環境に関するシマッチュ（島民）一人ひとりの意識醸成
- ⑧世界自然遺産の島として、生物多様性を誇る豊かな自然環境の継続的な保護・研究と情報発信
- ⑨地域循環共生圏の構築に向けた、廃プラスチック対策などの環境保全と資源循環による産業への展開

Peace 平和：

- ⑩人と人とのつながりを大切にする、奄美伝統の「結」や「共助」などシマの精神に学ぶ地域福祉の推進
- ⑪災害に備えたインフラ整備と声をかけ合い支え合うコミュニティを基礎とした、安全で安心な地域連携の構築

Partnership パートナースhip：

- ⑫「奄美市SDGs推進プラットフォーム」を軸に世代・分野・組織等を超えた多様なステークホルダーとの連携を創出
- ⑬出身者／奄美ファン／有識者／各種企業・団体など、島外との多様なパートナーシップの拡大

7 重点テーマ個別目標及び実現に向けたアクション

「あまみSDGsアクションプラン」に位置づけている13の重点テーマごとに、「奄美市『攻め』の総合戦略2020」各施策や目標（KPI）をSDGsとリンクさせ「SDGs推進の目標」を設定し、SDGsのゴール及びターゲット、指標、実現に向けたアクションを示しています。アクションの実施主体は、地域住民、企業、組合、団体、行政等の様々な役割が期待されており、「自分ごと」として捉え、さらにアクションを起こすことで、経済、社会、環境の三側面を意識した多様な取組の展開が期待できます。

【「しあわせの島」イメージイラスト】



～しあわせの島～ 奄美市『攻め』の総合戦略2020の全体像

I 経済的に自立した島									
1-1 世界自然遺産を活かした観光振興	1-2 奄美の特色を活かした観光の充実	1-3 多様な主体の観光への参画促進	2-1 観光連携組織強化	2-2 観光人材育成	2-3 島内観光の周遊・回遊促進	3-1 雇用(働く人)支援	3-2 雇用(事業所)支援	3-3 起業家の人材支援	
1-7 適切な市場分析などによる誘客施策の展開	1 奄美大島観光ブランドの構築	1-4 産業連携の推進	2-7 クルーズ受入体制の充実	2 観光振興体制	2-4 外国人観光客受入体制整備	3-7 新たな仕事づくりの取組	3 働き方支援	3-4 チャレンジする企業支援	
1-5 スポーツアイランドの形成	1-5 近隣地域との連携		2-6 施設整備の充実		2-5 全ての人が楽しめる観光地づくりの推進		3-6 農林水産業の振興	3-5 多様な働き方支援	
II 子育てに適した島									
IV 豊かな自然と伝統を守る島	8-1 身近に触れる機会の創出	8-2 「知」の蓄積と情報発信	8-3 文化やシマムタの保存・継承	1 奄美大島観光ブランドの構築	2 観光振興体制	3 働き方支援	4-1 「おいし」さがしのお手伝い(結婚支援)	4-2 妊産・出産支援	4-3 子育て支援
	8-7 持続的な自然環境の活用	8 「環境文化」を守り受け継ぐ		8 「環境文化」を守り受け継ぐ	しあわせの島	4 子どもづくり応援		4 子どもづくり応援	4-4 仕事と子育て両立できる環境づくり
	8-6 自然環境の保全	8-5 伝統技術の継承と産業振興の両立		8-4 シマの伝統技術の継承	7 地域づくり	6 「シマに学ぶ」環境づくり		5 定住支援	4-7 子育てに関する経済的不安の解消
III 皆が知恵を出し実行する島									
	7-1 集落・町内会の活性化	7-2 一集落1ブランド事業の推進		6-1 地域に根ざしたふるさと教育の推進		6-2 多様な「学び」の機会の創出		5-1 受入のための体制づくり	5-2 県営などとの連携
	7-7 外部視点の活用	7 地域づくり		7-3 地域で学ぶ会等共創の再構築支援		6-7 島のおしごとがわかる事業		6 「シマに学ぶ」環境づくり	6-3 地域間交流・国際交流
	7-6 関係人口との連携	7-5 中心市街地の活性化	7-4 シマさばくり応援	6-6 奄美大島共同キャバパスの具体化	6-5 大学等との連携	6-4 教育環境の充実	6-6 就業支援(住まい)の確保	5-5 互いに知り合う機会の創出	5-4 「島に帰る」を促す情報発信

7 重点テーマ個別目標及び実現に向けたアクション

重点テーマ①：全てのシマッチュ（島民）が、一人ひとりの立場や価値観を認め合い・学び合う、心身共に豊かな暮らしの実現

NO	SDGs推進の目標	SDGs目標		指標	現状値	目標値	実現に向けたアクション
		ゴール	ターゲット				
1	「一人ひとりの人権の尊重」の意識を浸透する。	5 ジェンダー平等を 実現しよう	5.1 10.2 10.3	市民のジェンダー平等意識の醸成と子どもたちの自己肯定感の向上 (子ども、教職員、保護者に向けたワークショップ、セミナーの開催) (認知症サポーター養成講座の開催回数・受講人数) (認知症家族会の参加者数) (小学校での人権講座実施)	— — 開催11回/年 受講者382名 (R3年度) 延べ27名/年 100%	— 4校/年 開催12回/年 受講者450名 延べ40名 100%	●県事業である「こどもたちの男女共同参画学びの広場推進事業」を活用する。 (市民及び教員への人権セミナー・ワークショップの実施) ●ハンセン病に対する差別や偏見をなくし、ハンセン病問題について周知・啓発のためパネル等展示を行う。 ●認知症の家族への講習、認知症サポーター養成講座を開催する。 ●手話講座を開催する。 ●学校PTA家庭教育学級での人権講座を開催する。
2	社会の多様性と活力を高め、男女間の実質的な機会の平等を実現する。	5 ジェンダー平等を 実現しよう	5.5 10.2	奄美市の各審議会委員の女性登用の割合	22.60%	40%以上60%以下	●男女共同参画研修会を開催する。 ●毎年度ごとに登用率の調査を実施する。
3	就労可能な生活保護受給者について就労収入の増加を図り自立に繋げる。	1 貧困を なくそう	1.2 1.3 1.4 10.1	生活保護受給者(被保護者)の増収達成者の増加	12人(被保護者就労支援事業における増収達成者) (R3)	24人(被保護者就労支援事業における増収達成者)	●生活保護受給者の就労において保護課の就労支援相談員・ケースワーカーとハローワーク等関係先との連携を強化し、就労相談及び就労の機会の増加を図る。

男女共同参画基本計画、人権教育・啓発基本計画等

7 重点テーマ個別目標及び実現に向けたアクション

重点テーマ②：奄美独自の伝統文化・歴史・自然環境といった「環境文化」を受け継ぎつつ、デジタル技術等も活かした教育環境の充実

NO	SDGs推進の目標	SDGs目標		指標	現状値	目標値	実現に向けたアクション
		ゴール	ターゲット				
1	世界自然遺産に登録された地域として、人類共通の財産としての「価値」や先人からの「教え」を引き継ぐために、まずは島民の認知を高める。		15.4 15.5	自主ルールを島民が認知している 「環境文化」について島民が理解している	—	100%	●自主ルールの周知広報に取り組む。 ●世界遺産センターや奄美博物館を活用した環境文化学習機会の創出に取り組む。 ●奄美の島唄やことわざとSDGs目標が合致しているものを整理する。
2	失われつつある地域の伝統行事や方言を次世代へ継承するために、形だけではなく本来の意味を伝え、新しい生活様式に即した環境づくりを行う。		4.1 4.7	学校内における地域の方々によるシマグチなどの指導回数	令和3年度実績 10校：81回	20校：200回	●島ロカレンダーの音声化事業に取り組む。 ●地域の方々によるシマグチ・シマ唄・八月踊りの指導に取り組む。
3	奄美に残されている復帰関係の貴重な資料や、希少生物等をデータ化し、子どもたちがそれらを身近に感じることの出来る教育環境を作る。		4.1 4.7	資料等のデータ化及び小中学生に配布されているタブレットへの登録	復帰関係資料数 確認中 希少生物などの資料収集	全ての子どもたちに提供し、シマの事について理解を深める	●フィルム等のデジタル化に取り組む。 ●希少生物などのデータベース化に取り組む。
4	デジタル技術を活用した自分で考え、自分なりの答えが出せる児童生徒を育成する。		4.1	全学校でのデジタル技術を活用した教育の実施	—	100%	●デジタル教材を活用した個別最適化された学習に取り組む。 ●動画学習プラットフォームを活用した教育の質の向上に取り組む。

7 重点テーマ個別目標及び実現に向けたアクション

重点テーマ③：医療と福祉の充実を図ると共に、昔ながらの生活に学ぶ健康長寿の島への回帰

NO	SDGs推進の目標	SDGs目標		指標	現状値	目標値	実現に向けたアクション
		ゴール	ターゲット				
1	自分の健康状態に関心をもち生活習慣病の予防を行いながら充実した毎日を過ごせるよう、住民の健康意識を高め、健康づくりの体制づくり（保健指導、疾病予防、早期発見・早期治療）を進める。		3.4 3.d	日常生活動作が自立している平均自立期間 (各種検診の受診率) (長寿健診の受診率) (地域健康教室の充実と参加者数)	男性76.3歳 女性82.4歳 (H30KDB帳票) H29 特定健診 37.4% 胃がん 6.0% 肺がん 9.4% 大腸がん 9.9% 子宮がん 21.4% 乳がん 29.3% 結核検診 20.5% 23.43% (R1) 23.78% (R2) 27.02% (R3) 名瀬56教室(1,167人) 住用10教室(535人) 笠笠23教室(1,310人)	R5に設定 R11 特定健診 60% 胃がん 20% 肺がん 20% 大腸がん 20% 子宮がん 30% 乳がん 40% 結核検診 60% 30.0% (R5) —	●健康に関する知識をもち、健康づくりに取り組む。 ●1年に1回は健診を受けて自分の健康状態を確認するよう啓発する。 ●病気があっても上手に付き合いながら生活するよう啓発する。 ●健診等を受けやすい仕組み作りに取り組む。 ●地域健康教室の継続のため、若い世代を支えとして巻き込みながら地域全体で健康づくりに取り組む。 ●地域において望ましい食生活を学ぶ講習会等を開催し知識の普及を行う
2	家庭や地域で子どもを温かく育て全ての子どもがすくすくと健やかに成長できるような社会を実現する。	 	3.2 5.4	子育てが楽しいと思う割合 近所や地域の人との交流の割合	98.9% (R1) 26.3% (R1)	100% (R11) 40% (R11)	●家族みんなで命の誕生を喜び新しい命を迎えるように取り組む。 ●子どもとたくさんの触れ合い創出に取り組む。 ●夫婦（家族）で協力し合い地域の方の協力や子育てサービスを上手に受けながら楽しく子育てする。 ●気軽に声をかけあい地域ぐるみで子どもを見守る環境をつくる。

7 重点テーマ個別目標及び実現に向けたアクション

重点テーマ④：地理的特性を活かした、世界を見据える持続可能な観光受入体制の構築と交流人口の拡大による関連産業の振興、魅力ある雇用の促進

NO	SDGs推進の目標	SDGs目標		指標	現状値	目標値	実現に向けたアクション
		ゴール	ターゲット				
1	誰もが訪れたい島 いつまでも暮らしたい島 を目指す。		8.9 11.4 11.a	満足度	47.70%	68.7%	●来訪者の受入環境を整備することで満足度を高める。 ●様々な旅行形態を提案することによって滞在日数を増やす。 ●魅力的なサービスや商品を生み出すことで観光消費額を増やす。 ●住民交流との交流や継続的な情報発信でリピーターを増やす。 ●住民意識調査観光が地域住民の生活のプラスになるための配慮を行う。
				宿泊数（1滞在宿泊数）	2.80泊	2.88泊	
				観光消費額（1人当たり）	65,082円	69,900円	
				リピーター率（来島回数2回以上と回答した場合）	34.64%	38.4%	
				住民意識調査（観光の発展によって生活が良くなったと回答した割合）	10.8%	21.7%	
2	地域において産業連携の取り組みを促進し、新たな商品やサービスを生み出すことで、産業の振興、雇用の促進を目指す。	  	2.3 8.3 8.9 11.a	市民一人当たり所得	2,529千円（R1）	2,552千円（R7年）	●地域雇用活性化推進事業を活用し、観光関連産業の魅力向上に取り組む。 ●地域雇用活性化推進事業を活用し、観光関連産業の従業員及び就職希望者の人材育成に取り組む。 ●ふるさと納税推進事業参加事業者の発掘・育成に取り組む。 ●地産地消の推進に取り組む。
				観光関連産業及び商品開発に向けたセミナーの開催回数	2回実施	2回以上実施	
				ふるさと納税推進事業参加事業者数	106社（R2）	112社（R5）	
				農林水産物直売所での販売額	5,100,420円（R2）	9,500,000円	

7 重点テーマ個別目標及び実現に向けたアクション

重点テーマ⑤：デジタル技術等を活かした新産業の創出と伝統産業の再盛、フリーランスなど多様な働き方の実現

NO	SDGs推進の目標	SDGs目標		指標	現状値	目標値	実現に向けたアクション
		ゴール	ターゲット				
1	情報通信（デジタル）技術の活用を通じて、本市の自然や歴史・文化、食等の多様な資源を活かした産業の振興を促進する。		8.2 8.3 8.9	市民一人当たり所得	2,529千円 (R1)	2,552千円 (R7年)	●令和2年度策定した第2次地域情報化計画に基づき、デジタル技術の活用により奄美大島観光ブランドの構築や観光受入体制、働く場支援を推進する。
2	伝統産業の再盛により、産業の活性化を目指す。		8.1 8.2	本場奄美大島紬：生産反数	3,290反 (R3)	3,000反	●令和3年度策定した第2期本場奄美大島紬産地再生計画に基づき、後継者育成や販路拡大等の各事業を展開する。 ●国内需要の更なる掘り起しや国外への販路拡大を図る。
				奄美黒糖焼酎：製成数量	7,642kl	16,994kl (H16焼酎ブーム時)	
3	多様な働き方の支援を行うとともに新産業の創出を目指す。		8.2 8.3 8.5 8.6 8.8	市内事業所数	2,398件 (H28)	2,400件 (R6)	●雇用（働く人）支援を行う。 ●雇用（事業所）支援を行う。 ●起業家の人材支援を行う。 ●チャレンジする企業支援を行う。 ●フリーランスなど多様な働き方支援を行う。 ●WorkStyle Labを拠点に多様な働き方の研究を行う。
				従業者数	15,805人 (H28)	15,800人 (R6)	

7 重点テーマ個別目標及び実現に向けたアクション

重点テーマ⑥：人口減少に歯止めをかけるため、島外からの移住を促進すると共に、出身者のUターンを増やす環境の整備

NO	SDGs推進の目標	SDGs目標		指標	現状値	目標値	実現に向けたアクション
		ゴール	ターゲット				
1	島で生まれ育った方々が、「島に帰りたい」という思いを実現できる移住・定住に向けた情報発信を行い一定程度の人口の維持を目指す。	8 働きがいも 経済成長も	8.8 8.9 11.1 11.3	本市施策を通じた移住者数	46名 (R3)	200名 (R6)	●受入のための体制づくりの取り組み。 ●集落などとの連携を実施する。 ●「島で暮らしたい」を促す情報発信の取り組み。 ●「島に帰る」を促す情報発信の取り組み。 ●互いに知り合う機会を創出する。 ●首都圏において移住相談会を実施し、移住者に奄美で暮らすための情報提供や相談を行う。
2	Uターンが移住後住みつづけるための定住環境の整備を行い一定程度の人口の維持を目指す。	8 働きがいも 経済成長も	8.8 8.9 11.1 11.3	本市施策を通じた移住者数	46名 (R3)	200名 (R6)	●医療や福祉、防災など、住民の皆様の安全・安心を守る定住環境の整備に取り組む。 ●定住促進住宅整備や空き家の利活用なども含めた住まい確保の支援に努める。
3	島外企業の奄美進出を支援し、企業誘致を行うことで人口増加を実現する。	8 働きがいも 経済成長も	8.2 11.a	ICTプラザかさり入居企業数	3社 (R4)	8社 (R5)	●ICTプラザかさりの入居企業誘致を積極的に行い、情報通信産業の市内進出を支援する。 ●WorkStyle Labのサテライトオフィスの入居企業誘致を行い、島外企業の誘致に取り組む。
				WorkStyle Lab入居企業数	1社 (R4)	2社 (R5)	

7 重点テーマ個別目標及び実現に向けたアクション

重点テーマ⑦：CO²削減や再生可能エネルギー導入などの取り組みと、地球環境に関するシマッチュ（島民）一人ひとりの意識醸成

NO	SDGs推進の目標	SDGs目標		指標	現状値	目標値	実現に向けたアクション
		ゴール	ターゲット				
1	温室効果ガスの排出量と吸収量の均衡を図るカーボンニュートラルの実現に寄与する社会の構築を目指す。	 	11.6 13.1 13.2 13.3	市有施設の年間温室効果ガス排出量を削減 市内事業所の温室効果ガス年間排出量を削減 市民ひとりひとりの取り組みによる温室効果ガス排出量の削減	9,588t-co2 R5に把握 —	6,258t-co2 R5に設定 —	●主要施設（庁舎、学校、上下水道施設）における省エネルギー施策、再生可能エネルギー導入を推進する。 ●温暖化対策法に基づく奄美市実行計画区域施策編の策定と推進を行う。 ●個人への意識の醸成に資する発信、普及啓発活動を実施する。（マイ箸、マイバッグ、マイボトル、ノーマイカーデー、公共交通機関の利用促進、地産地消等）
2	地産再生エネ電力の供給による持続可能な循環型社会の構築を目指す。	   	6.2 7.1 7.2 7.a 9.4 12.4 12.5	下水道バイオマスの有効活用によるCO ² の削減	0t (R4)	380t/年 (R12)	●奄美市名瀬浄化センターにおける地球温暖化防止と再生可能エネルギーの普及促進に貢献する消化ガス発電事業、污泥肥料化、処理水再利用の導入に取り組む。
3	企業が取り組む自然エネルギーの導入を促進し、産業支援とともにCO ² 削減を目指す。	  	7.1 7.2 7.a 9.4 11.6	奄美市実行計画区域施策編策定後に設定	—	—	●企業等が大規模太陽光設置を行うに際し、固定資産税の減免に取り組む。 ●民間企業と連携して風力発電の計画的な電力供給に努める。

7 重点テーマ個別目標及び実現に向けたアクション

重点テーマ⑧：世界自然遺産の島として、生物多様性を誇る豊かな自然環境の継続的な保護・研究と情報発信

NO	SDGs推進の目標	SDGs目標		指標	現状値	目標値	実現に向けたアクション
		ゴール	ターゲット				
1	奄美大島に生息する固有種・希少種に対する知識や保全活動に関する意識を高め、情報を発信していくことで、人と自然が共生できる地域の構築を目指す。	 	11.4 15.5 15.7 15.8 15.9	天然記念物のロードキル発生件数	10件 (H30)	0件	●奄美大島自然保護協議会による盗掘盗採防止パトロール及び水際対策に取り組む。 ●傷病個体等の飼育・展示を行う。 ●講演会・自然観察会を実施する。 ●研究機関等との連携イベントや企画展などを開催する。 ●外来種の侵入・拡散の防止に取り組む。 ●既存外来種の個体数削減に取り組む。 ●異種交配の防止に取り組む。

7 重点テーマ個別目標及び実現に向けたアクション

重点テーマ⑨：地域循環共生圏の構築に向けた、廃プラスチック対策などの環境保全と資源循環による産業への展開

NO	SDGs推進の目標	SDGs目標		指標	現状値	目標値	実現に向けたアクション
		ゴール	ターゲット				
1	有機資源を活用しながら農業で発生する廃棄物などを有効に活用し、環境に配慮した持続性の高い資源循環型農業を実現する。	  	9.4 11.6 12.4 12.5	有機農業支援センターを中心に、地元製糖事業者や畜産農家等と協力して製造した堆肥の販売実績	1,678 t (R3)	1,678 t (R12)	●原料の搬入量等がすでに固定されており、生産体制も確立されている事から増産は難しく、現在の生産量を維持するために計画的な施設等の更新を行う。
2	農業者・農業者団体・関係機関による廃プラスチックの排出抑制と適正処理の推進を図る。	 	11.6 12.4 12.5	大島本島地域農業用廃プラスチック類適正処理推進協議会による、農業用廃プラスチックの回収実績	12,335kg (R3)	12,335kg (R12)	●生分解性マルチの活用など、農業用廃プラスチック排出量の抑制を図る。 ●農業用廃プラスチックの回収時期・方法など検討し、回収・運搬・処理体制の強化を図る。 ●排出段階の分別や異物除去を徹底し、再生しやすい形での排出に取り組む。
3	大島地区衛生組合と連携し、さらなるごみの減量化と資源化を推進する。	  	11.6 12.3 12.4 12.5 14.1	ごみ総排出量（12%削減）	18,680t/年 (H26)	16,438t/年 (R12)	●発生抑制・再使用の推進 ごみの発生抑制・再使用に対する意識の啓発に取り組む。 ●資源化の推進 発生したごみについては、分別を徹底して行うように周知し、資源化率の向上を図る。 ●適正処理の推進 本市で発生したごみについて、衛生組合と連携し、名瀬クリーンセンターの適正な維持管理を継続していく。

7 重点テーマ個別目標及び実現に向けたアクション

重点テーマ⑩：人と人とのつながりを大切にする、奄美伝統の「結」や「共助」などシマの精神に学ぶ地域福祉の推進

NO	SDGs推進の目標	SDGs目標		指標	現状値	目標値	実現に向けたアクション
		ゴール	ターゲット				
1	共生・協働の地域社会づくりを実現する。		17.16 17.17	名瀬地区における自治会等組織率	66団体/105団体 62.9% (R4)	74団体/105団体 70.5% (R12)	●地域支え合い体制づくりや、自主防災組織づくりなど、住民のニーズに寄り添いながら、民生委員等と連携し地域コミュニティの確立に取り組む。 ●自治会等設立に必要な人材の掘り起こしを促進する。
2	市民との協働により集落を元気にする取組を進めるとともに、シマの「結」や「共助」の精神に代表される地域との関わり方を学ぶ環境づくりを進める。		17.16 17.17	地域リーダー育成	0名 (R3)	4名 (R6)	●地域に残る豊かな自然と歴史・文化の継承に向けて取り組む。（地域行事、緑化・清掃活動、SDGsを学ぶ機会の創出） ●地域で支えあい、見守る共助の仕組みづくりに取り組む。
3	高齢者も障害者も全ての人が地域の一員として地域活動に参加し、互いに支え合い、喜びや生きがいを感じられる地域づくりを進める。		17.16 17.17	高齢者実態調査・地域のつながりを感じるか・社会活動への参加状況について	地域とのつながりをとても感じる 一般高齢者33.5% 若年者24.0% 過去1年間の社会活動へ参加がない 一般高齢者37.3% (R1)	地域とのつながりをとても感じる 一般高齢者40.0% 若年者30.0% 過去1年間の社会活動へ参加がない 一般高齢者30.0%	●地域における世代間交流の機会づくりに取り組む。 ●地域ボランティアの立ち上げと担い手の育成に取り組む。 ●高齢者や障害者の地域での活躍の場の創出に取り組む。

7 重点テーマ個別目標及び実現に向けたアクション

重点テーマ⑪：災害に備えたインフラ整備と声をかけ合い支え合うコミュニティを基礎とした、安全で安心な地域連携の構築

NO	SDGs推進の目標	SDGs目標		指標	現状値	目標値	実現に向けたアクション
		ゴール	ターゲット				
1	だれ一人取り残されることのないような防災計画を策定する。	 	11.5 13.1 13.2	高齢者や体の不自由な方，小さなお子さんのいる世帯が避難できるようなマンパワの構築	名瀬地区：自主防災組織のある団体37団体 (活動自治会数66) (R3)	市内の全地区に自主防災組織を設置 (R12)	●地区防災計画の作成に取り組む。(要支援者把握) ●多様な年代・属性の人が参加する防災訓練を実施する。
2	ほっとできる住まい、ともに支えあうシマ暮らしを実現する。	 	9.1 11.1	居住支援セーフティネット住宅確保件数	0件 (R3)	10件 (R12)	●安全な住宅ストックを形成する。 ●住まいに関するソフト対策を充実する。 ●被災者の住まいを確保する。 ●高齢者や障害者等が暮らす住宅の質を向上する。 ●多様な住まいを確保する。 ●地域活動を通じた見守り・支え合いを促進する。 ●公営住宅等の長寿命化を図る。 ●住宅セーフティネット制度を構築する。 ●住宅確保要配慮者向け居住支援を充実する。
3	限られた土地を有効活用し、安全を確保しつつ、良好な住環境への更新を行う。	 	11.3 11.7 11.b 13.1	居住誘導区域内の人口密度	68.9/ha (H27)	52.4/ha (R22)	●居住誘導区域への誘導策の検討を実施する。 ●立地適正化計画に防災指針の追加を行う。 ●空き家の活用促進及び危険空き家の除去促進に取り組む。
				助成金による危険空き家の除去件数	7件/年 (R3)	10件/年 (R12)	

7 重点テーマ個別目標及び実現に向けたアクション

重点テーマ⑫：「奄美市SDGs推進プラットフォーム」を軸に世代・分野・組織等を超えた多様なステークホルダーとの連携を創出

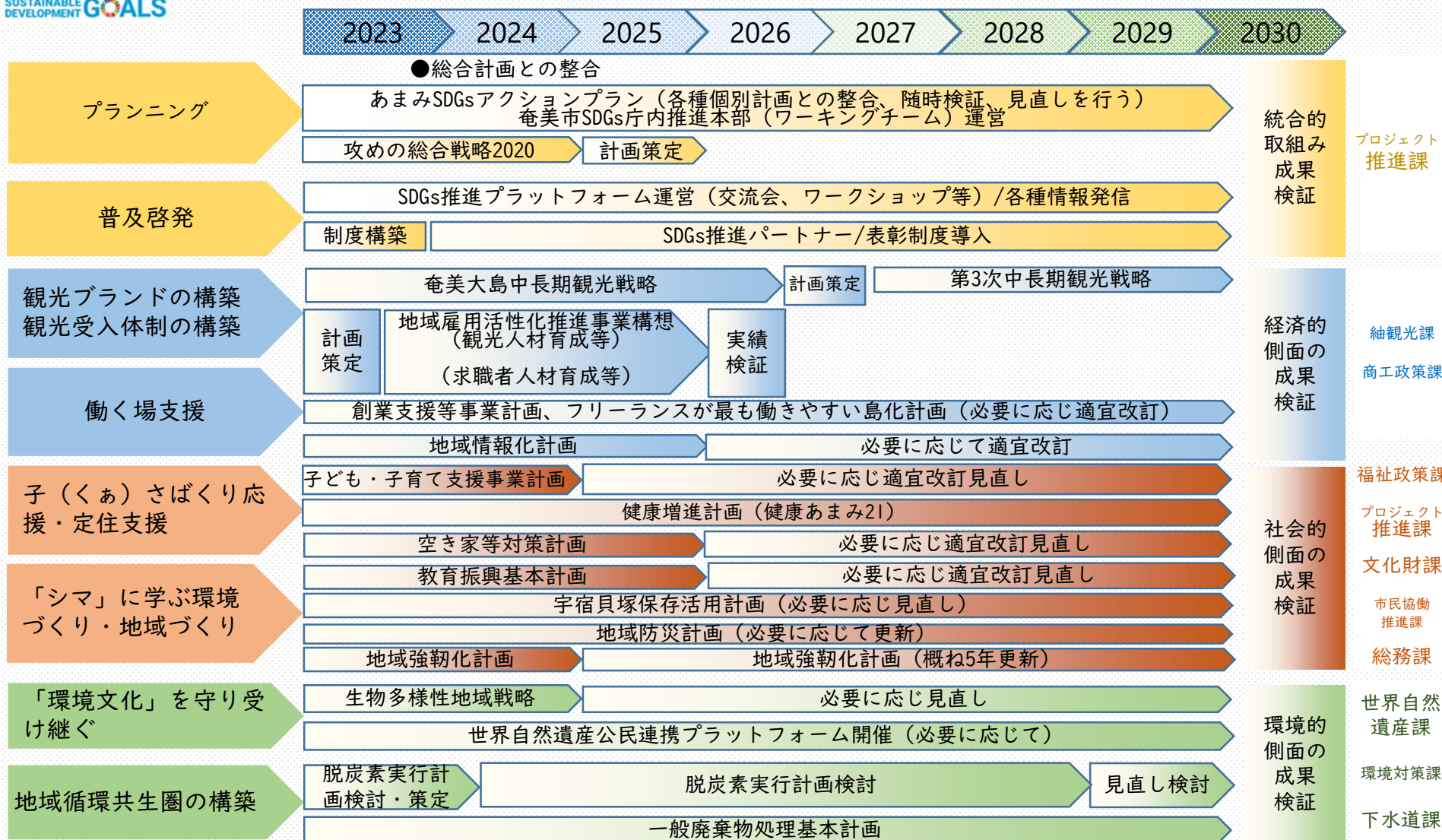
NO	SDGs推進の目標	SDGs目標		指標	現状値	目標値	実現に向けたアクション
		ゴール	ターゲット				
1	奄美の魅力を活かした地域間の交流や課題解決への取り組みが活発に行われ、持続可能で地域住民が安心して生活できる社会を実現する。		17.16 17.17	官民連携協定締結数	47件 (R3)	60件 (R12)	●奄美市SDGs推進プラットフォームの運営により、会員間のパートナーシップ構築に取り組む。 ●SDGsフェスタを開催し、個別具体的な課題解決に向けた検討を行う。
				奄美市SDGs推進プラットフォーム会員数	0件	50件 (R8)	
2	あまみSDGsアクションプランを策定し、モデル的事業を軸にSDGs未来都市構想を策定する。		17.16 17.17	SDGs未来都市構想の策定	0件 (R3)	1件 (R6)	●あまみSDGsアクションプランを策定し、重点テーマに掲げたアクションに取り組む。 ●経済・環境・社会の3側面が循環したモデル事業を提案し、実行する。 ●SDGs未来都市構想の検討を行い、プラットフォーム会員と連携して取り組む。
3	地域コミュニティとNPO法人等が連携し、地域の課題を解決し、市民協働のまちづくりを実現する。		17.16 17.17	地域団体×NPO等連携による協働のシマづくり事業「紡ぐきよらの郷（しま）づくり事業」の活用	4団体 (R4)	8団体	●自治会等地域コミュニティとNPO法人との意見交換会の開催し、連携団体のマッチングを行う。
4	官民学の連携による課題解決及び地域活性化を推進する。		17.16 17.17	市民一人あたり所得	2,529千円 (R1)	2,552千円 (R7年)	●市内中小企業の異業種交流の場を設置し、地域経済の活性化に取り組む。 ●PPPプラットフォームを設立し、PPP事業としての可能性調査等の対話を行い、事業化に向けて取り組む。 ●高等学校が取り組む地域コンソーシアムに参画し、各種協力を行う。

7 重点テーマ個別目標及び実現に向けたアクション

重点テーマ⑬：出身者／奄美ファン／有識者／各種企業・団体など、島外との多様なパートナーシップの拡大

NO	SDGs推進の目標	SDGs目標		指標	現状値	目標値	実現に向けたアクション
		ゴール	ターゲット				
1	島外の多様なステークホルダーとの交流が行われ、奄美のより良い社会の構築に向けた環境の整備を実現する。		17.16 17.17	奄美市SDGs推進プラットフォーム賛助会員数	0件 (R3)	30件 (R8)	●奄美市SDGs推進プラットフォームの運営により、イベントや情報発信により会員の獲得及びパートナーシップ構築に取り組む。 ●SDGsフェスタを毎年開催し、多様なステークホルダーの参画を促すとともに、課題解決手法の検討の場を提供する。
2	島外の奄美出身者や関係団体、奄美ファンや友好都市等との交流を深め、更なる連携強化を図り、持続可能な環境整備を目指す。		17.16 17.17	郷土会・友好都市との連携	郷土会11 友好都市2 (R3)	郷土会11 友好都市3 (R8)	●人とのつながり強化に取り組む。 ●積極的な連携を構築する。
				奄美市ふるさと100人応援団との連携	47件 (R4)	50件 (R8)	
3	島外企業との連携や協働による官民連携に努め、課題解決及び目標達成を実現する。		17.16 17.17	島外民間企業等との連携協定数	10件 (R3)	20件 (R8)	●自治体課題と企業をマッチングするプラットフォームを活用する。

8 奄美市SDGs未来都市構想の実現に向けた個別計画等スケジュール



【あ】

アクションプラン

目標を達成するためのプロセスを具体的なタスクに切り分け、リストアップした行動計画のこと。

いつまでに何を目標にどう行動するのかといった行動計画を立てることで、業務の把握と適切な管理を行うことができる。

奄美市SDGs庁内推進本部

SDGsの達成に向け、本市におけるアクションプランの策定や新たなモデル事業の導入等を策定するとともに、市職員が、市民及び事業者率先してSDGsを意識した活動を行うため、市幹部による横断的な検討を行う機関のこと。

奄美市SDGs推進プラットフォーム（ASP）

SDGsの推進に向け、地域住民・企業・行政等による幅広い活動において、SDGsに関連する活動に取り組む会員相互の情報交換や交流、各種事業の導入検討を通じて、持続可能な社会の構築に向けた奄美らしい活動や高い社会的価値を生み出す活動の活性化を目的とした場の創出のこと。

【い】

5つのP

2030アジェンダの中で提唱され、SDGsの達成に極めて重要であり、5つのPが達成できればすべての人々の生活が大いに改善すると示されている。

SDGsの17の目標は5つの要素に分類され、それぞれの要素の頭文字のPのことをいう。

People（人間）：

あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現、健康・長寿の達成（目標1、2、3、4、5、6）

Prosperity（繁栄）：

成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション、持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備（目標7、8、9、10、11）

Planet（地球）：

省・再生可能エネルギー、防災・気候変動対策、循環型社会、生物多様性、森林、海洋等の環境の保全（目標12、13、14、15）

Peace（平和）：

平和と安全・安心社会の実現（目標16）

Partnership（パートナーシップ）：

SDGs実施推進の体制と手段（目標17）

【か】

カーボンニュートラル

二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植物、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。

【き】

居住支援セーフティネット住宅

「住宅セーフティネット制度」に基づき登録され、住宅確保要配慮者（高齢者、障害者、子育て世帯など）の入居を拒まない賃貸住宅のこと。

【さ】

再生可能エネルギー

発電時に地球温暖化の原因となるCO2を排出せず、環境への負荷が少ない自然由来のエネルギー（太陽光発電、バイオマス発電、風力発電、太陽熱利用、海洋再生可能エネルギーなど）。

サステイナブル

地球環境の持続可能性、人間社会の文明・経済システムの持続可能性のこと。

【し】

ジェンダー

生物学的な性別に対して、社会的・文化的な役割としての「性」を意味する。社会における立場あるいは役割としての男女の在り方を意味する語のこと。

縄文文化

先史時代の日本列島に形成された狩猟採取民の文化であり、地球と共存共栄することに最適化していたといわれる。

【す】

ステークホルダー

市民、企業、団体、NPO、行政機関等SDGsを推進する様々な主体のこと。

【せ】

生分解性マルチ

生分解性プラスチックでできたマルチフィルム（農作物の株本を覆うフィルム）のことである。「生分解性プラスチック」とは、土中の微生物により分解され、最終的には水や二酸化炭素になるプラスチックのこと。

世界自然遺産プラットフォーム

多様な主体による自由な議論によって、奄美大島が世界自然遺産に登録されたことによる効果を最大化することを目的として、市民参加型の機動的な政策を実現する公民連携の基盤のこと。

ゼロエミッション

1994年に国際連合大学が提唱した「廃棄物のエミッション（排出）をゼロにする」という資源循環型の社会システムのこと。産業活動から排出されるすべての廃棄物を、他の分野の原材料として活用することで、廃棄物ゼロを目指す。

【ち】

地域コンソーシアム

知財創造教育に取り組んでいる先生方、地域企業、関係機関など、教育現場と地域教育が効果的に連携・協働を図りながら、地域一体となって知財創造教育を推進するための基盤体制のこと。

地域循環共生圏

美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方のこと。

農山漁村も都市も活かす、地域の活力を最大限に発揮する構想であり、その創造によりSDGsやSociety5.0の実現にもつながる。

【は】

バイオマス

生物資源（bio）の量（mass）を表す概念で、「再生可能な、生物由来の有機性資源で、化石資源を除いたもの」である。バイオマスは、大気中で新たに二酸化炭素を増加させない「カーボンニュートラル」な資源といわれる。

【ふ】

フリーランス

会社や団体などに所属せず、仕事に応じて自由に契約をする人のことであり、本市では、「自らの才覚や技能を提供することにより、社会的に独立した個人事業主又は小規模事業者、副業者も含む」と定義し、支援を行っている。

【ま】

マルチステークホルダー・パートナーシップ

「ステークホルダー」は様々な主体のことを意味するが、3者以上の様々なステークホルダーが自発的かつ協調的に、共通の目的達成のために合意して具体的な作業に連携して取り組むこと。

【ゆ】

ユニバーサルツーリズム

全ての人を楽しめるよう創られ、高齢者や障害等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行のことをいう。

【ろ】

ロードキル

動物が道路上で車に轢かれる現象のこと。広義には車に轢かれたものだけではなく、側溝などの道路構造物に落ちた場合、道路照明塔に衝突した場合など、道路に起因する野生生物の死傷を全て言うこともある。

【N】

NPO法人

Non Profit Organization の略で、「非営利組織」と訳される。広く社会全体に役立つ活動を、組織として自発的に行い、組織内部での利益配分を行わず、事業活動継続を目指す団体を指す。

【P】

PPP

公共（Public）と民間（Private）が連携協力（Partnership）し、行政サービスを行うことの総称であり、多様なニーズに対応するため、公共の施設とサービスに民間の知恵と資金を最大限活用する考え方のこと。

【S】

SDGs

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs：Millennium Development Goals）の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。先進国と途上国が一丸となって達成すべき目標として17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っている。

SDGsアクションプラン

国の「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」で掲げられた8つの優先課題に対して、日本政府がSDGsの達成と「日本のSDGsモデル」の構築を目指し重点項目を整理した計画のこと。

【W】

WorkStyle Lab

情報通信産業及び場所にとらわれない働き方を行うフリーランス等の拠点施設として、島内外の交流によるビジネス性の向上、人材育成及び誘致、企業誘致、ワーケーション支援、起業家支援、雇用及び就職支援を目的とし、令和3年7月16日にオープンした本市の産業拠点施設のこと。